日本・トルコ友好120周年特集

友好の原点・串本

～郷土の誇れる物語を伝えよう～

郷土にまつわる、誇れる人物、自然、文化、歴史などを知ることで、郷土に対する自信と誇りを持ちましょう。県では「郷土の誇りと愛着を育む教育の充実」を進め、郷土の素晴らしい物語を伝えていきます。

問　県庁文化国際課
☎073-441-2054

世界に誇れる友情の物語
エルトゥールル号遭難者の救助

今年は、日本とトルコの友好を深める「2010年トルコにおける日本年」です。トルコの人々が日本に親しみを強く感じるようになったのは、120年前に串本町大島沖で起こった悲しい出来事に由来しています。

交流のはじまり

1887(明治20)年に、小松宮彰仁殿下及び同妃殿下が勅命により欧米軍事視察に向かいました。途中、オスマン帝国(現在のトルコ共和国)のイスタンブルに10日間滞在し、盛大な歓待を受けたため、明治天皇はオスマン帝国スルタン(君主)に日本の最高勲章を贈呈しました。

これを受け、スルタンは、明治天皇にオスマン帝国の最高勲章の贈呈を決定し、1889(明治22)年7月14日、使節団を乗せたエルトゥールル号は、イスタンブルを出航。苦労を重ね、翌1890(明治23)年6月7日横浜港に入港し、無事に任務を果たします。

エルトゥールル号の遭難

しかし、その帰路9月16日の夜、悲劇は起こります。串本町大島沖にさしかかったエルトゥールル号は、台風に遭遇し、沈没してしまいます。乗組員は荒れ狂う海に投げ出され、何とか海岸にたどり着くことができた乗組員は、断崖をよじ登り、樫野埼灯台に助けを求めます。全身傷だらけで現れた乗組員の様子に、惨事を直感した灯台守は大島住民に援助を要請しました。

トルコ人を救え!

知らせを受けた住民は懸命に救助にあたりました。遭難者に対して献身的な看護を続け、さらに、衣類や、わずかな蓄えしかなかった食料、果ては非常用の鶏まで提供し遭難者を介抱します。その結果、69名の乗組員が助かり、後日、日本海軍の軍艦「比叡」、「金剛」により、無事トルコに送り届けられます。大島住民と日本政府のこうした対応にトルコ国民は深い感銘を受けました。エルトゥールル号の遭難は587名が死亡する大惨事ではありましたが、同時に串本とトルコ、日本とトルコの120年に及ぶ友情の始まりにもなったのです。

日本人を救え!

それから95年、ほとんどの日本人がこのことを忘れ去っていた1985(昭和60)年3月17日、物語は、新たなページを開きます。イラン・イラク戦争下、イラクのサダム・フセイン大統領が、「今から48時間経過後、イラン領空の全航空機を攻撃対象とする」と発表しました。各国国民が次々と避難していく中、テヘランに取り残されようとしていた日本人はパニックに陥ります。緊迫した状況下、日本人を救ったのは、他ならぬトルコ政府でした。トルコの人々はエルトゥールル号遭難の際に受けた恩を忘れていなかったのです。トルコ政府は日本側の要請に応じて、トルコ航空機をテヘランに派遣し、自国民よりも日本人を優先して救出してくれたのです。イラクの攻撃設定期限のわずか75分ほど前のことでした。

語り継がれた感謝の心

当時、どうして、トルコが日本人を救出してくれたのかを知る日本人はほとんどいませんでした。しかし、トルコでは、エルトゥールル号の遭難の物語を教科書の中で子ども達に伝えていました。トルコ人は日本人への感謝の心を、世代を超えて伝え続けていたのです。

現在の日本とトルコのとても良好な友好関係は、実は120年前のエルトゥールル号遭難に際し、懸命に乗組員を救助した、大島の人々の温かい心に端を発していたのです。



ボスポラス海峡停泊中のエルトゥールル号



アタテュルク騎馬像の前を行進するメフテル軍楽隊



洋上追悼式典

受け継がれた心の交流

6月3日から6日にかけて、日本トルコ友好120周年事業として追悼式典及びさまざまな交流事業が串本町で催されました。

3日は寛仁親王殿下と御長女の彬子女王殿下をお迎えしたほか、駐日トルコ大使等も出席し、遭難事故の犠牲者の霊を弔うため、洋上(海上自衛隊の護衛艦「せとゆき」艦上)・陸上で追悼式典が執り行われました。また、トルコ建国の父ケマル・アタテュルク騎馬像が串本町に移設されたことを記念した除幕式やメフテル軍楽隊の行進、エルトゥールル号の紙芝居などが披露され、両国の友好の輪が広がりました。

海に眠る友好の証

平成18年から、平成22年までの5カ年計画で、エルトゥールル号の発掘調査が行われました。今年2月の調査終了時点までに発掘された遺品の総数は6825点にものぼります。

遺品の一部は大島のトルコ記念館で展示されています。



平成21年の調査で引き上げられた大鍋とトウファン・トゥランル調査団長
(写真：エルトゥールル号発掘調査団提供)

120年ぶりの帰郷

9月には「2010年トルコにおける日本年」事業として、串本町の姉妹都市であるメルシン市で行われるエルトゥールル号120年慰霊式典に和歌山県から代表団を派遣し、発掘されたエルトゥールル号の遺品の里帰り展や県の紹介展示を行う予定です。



2つの慰霊碑
写真上：メルシン市
写真下：串本町樫野

語り継がれる物語

退職教員6人で組織された「串本民話の会」は、核家族化などにより地域社会において、子や孫へと語り継がれてきた大切な民話や伝説などが風化することを心配し、ボランティアにより平成4年から紙芝居を使った郷土教育を行っています。鑑賞された方は子どもを中心に約5千人にのぼります。



友好120周年事業で上演される「トルコ軍艦エルトゥールル号の遭難」

和歌山県は郷土の誇れる物語を伝えていきます。

ふるさと教育を推進するための環境整備

学習資料の充実・提供

和歌山を学ぶための副読本などの充実。

外部人材の積極活用

地域や県内外で活躍する人の経験や知識に触れる機会の充実。

問　県教育委員会学校指導課
☎073-441-3651

博物館施設を活用した体験学習の充実

県立紀伊風土記の丘や県立自然博物館などを活用した参加型体験教室や出前講座など、ふるさとへの誇りと愛着をはぐくむ学習機会の充実。

問　県教育委員会文化遺産課　☎073-441-3730



エルトゥールル号事件も掲載

紀の国先人展

～紀の国が生んだ社会・政治の先人たち～

郷土や歴史が生んだ先人たちの業績を紹介するために、「紀の国先人展」を開催しています。

展示場所　きのくに志学館(文化情報センター)和歌山市西高松一丁目7番38号

展示期間　平成23年2月末まで(予定)

休館日　毎週月曜日・第2木曜日(祝日の場合次の平日)、年末年始

問　県庁文化国際課
☎073-441-2050